

令和2年度 在宅医療・介護連携推進事業 各在宅医療・介護連携センターの実績について

事業項目	久留米		小郡三井		大川三瀬		浮羽			
	実施	主な内容	実施	主な内容	実施	主な内容	実施	主な内容		
① 研修実行委員会 (センターにより名称等は異なる)	○	-	○	-	○	-				
② 多職種連携研修会	○	<ul style="list-style-type: none"> ・1月26日【参加者 13人】 医療と介護の連携 私の考えるチームケアとは 講師:アップルハート久留米ケアプランセンター 介護支援専門員 倉員 良子氏 ・2月15日【参加者 12人】 巡回随時対応型訪問介護看護について 講師:こがらウンドケア野伏間 藤谷佳美氏 			○	<ul style="list-style-type: none"> ・12月17日【参加者 27人】 口腔ケアとケアマネジメント 資料1-① イマサト歯科クリニック 今里 憲弘 先生 資料2-② 石川歯科医院 石川 毅彦 先生 資料3-③ せら歯科医院 世良 健司 先生 ・1月20日【参加者 20人】 自立支援の考え方についての振り返り 講師:厚生労働省 老健局 認知症施策・地域介護推進課 地域づくり推進室 田中 明美氏 認知症の方の支援(セルフケアの意識向上) 講師:大川市東地域包括支援センター 社会福祉士 戸井田 明子氏 痛みがあり、歩行不安定な方の支援 講師:大川市北地域包括支援センター 介護支援専門員 樽見 嘉代子氏 セルフネグレクト要素の強い方の支援(家族の健康管理への視点) 講師:大川市南地域包括支援センター 主任介護支援専門員 横山 智子氏 認知症の方の支援(役割を持つことの重要性・支援者の意思統一) 講師:小規模多機能型居宅介護あおぎり荘 介護支援専門員 松本 昭子氏 ・3月26日【参加者 40人】 ～思いをつなぐ～「私のこれからノート」 講師:大川市役所健康課 高齢者支援係 松本 梨恵子 氏 多職種で支援するACP 講師:いちのせファミリークリニック 副院長 ノノ瀬 英史 氏 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・11月30日【参加者 66人】 今こそ正しい感染対策を～ 一人ひとりの行動変容が感染拡大予防に繋がる～ 講師:田主丸中央病院 感染管理認定看護師 右田 早苗氏 		
③ 在宅医療・介護従事者研修会	○	<ul style="list-style-type: none"> ・10月19日【参加者 40人】 グループホームと看取り 講師:グループホームいちよの杜 諏訪野 葉山 和幸氏 ・11月20日【参加者 39人】 看多機における看取り事例～嚔下障害を呈した利用者の看取り～ 講師:看護小規模多機能居宅介護ゆのそピア 訪問看護ステーション高良山 横山かよ氏 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・8月21日【参加者 18人】 高齢者施設における感染対策について 講師:感染管理認定看護師 堀内 貴尋氏 ・9月18日【参加者 19人】 最初の「気づき」が大切～バイタルサインの捉え方～ 講師:嶋田病院 集中ケア認定看護師 栗木氏 ・10月19日【参加者 14人】 褥瘡予防とケア 講師:皮膚・排泄ケア認定看護師 池田 由美氏 ・10月21日【参加者 12人】 バイタルサインの捉え方、吸引時のコツ 講師:集中ケア認定看護師 栗木 公孝氏 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・11月4日【参加者 32人】 ケアマネジャーの感染症対策 講師:嶋田病院 感染管理認定看護師 堀内 貴尋氏 ・11月9日【参加者 34人】 新型コロナウイルス感染症対策 講師:小郡三井医師会会長 島田 昇二郎氏 ・11月25日【参加者 11人】 高齢者施設における感染症対策 講師:講師:感染管理認定看護師 堀内 貴尋氏 ・12月9日【参加者 12人】 急変対応 ～BLSを身につけよう～ 講師:嶋田病院 集中ケア認定看護師 栗木 公孝氏 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・2月14日【参加者 4人】 介護現場のためのマネジメント研修 講師:株式会社シルバーウッド社 		
④ 同行訪問研修会										
⑤ 講演会(市民公開講座)										
⑥ 出前講座			○	<ul style="list-style-type: none"> ・8月24日【参加者38人】 コロナとACPについて 講師:小郡三井医師会会長 島田 昇二郎氏 ・10月15日【参加者14人】 ACPと新型コロナウイルス 講師:小郡三井医師会会長 島田 昇二郎氏 ACPノートの書き方説明 講師:嶋田病院 緩和ケア認定看護師 梅木 倫子氏 ・10月21日【参加者41人】 ACPと新型コロナウイルス 講師:小郡三井医師会会長 島田 昇二郎氏 ACPノートの書き方説明 講師:緩和ケア認定看護師 梅木 倫子氏 ・11月10日【参加者 23人】 もしもの時の心づもり 講師:嶋田病院 緩和ケア認定看護師 梅木 倫子氏 ・12月14日【参加者 18人】 もしもの時の心づもり 講師: 嶋田病院 和ケア認定看護師 梅木 倫子氏 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・1月13日【参加者 54人】 新型コロナウイルス感染症に備えて 講師:小郡三井医師会会長 島田 昇二郎氏 ・2月25日【参加者16人】 「人生会議」について 講師:小郡三井医師会 会長 島田 昇二郎氏 ・3月10日【参加者 22人】 「新型コロナウイルス」「人生会議」について 講師:小郡三井医師会会長 島田 昇二郎氏 ・3月22日【参加者 22人】 「人生会議と在宅医療」「コロナ」 講師:小郡三井医師会会長 島田 昇二郎氏 ・3月25日【参加者22人】 「人生会議」「新型コロナ」について 講師:小郡三井医師会会長 島田 昇二郎氏 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・10月2日【参加者 16人】 在宅生活を支える介護保険～これからの在宅での暮らし～ 講師:大川三瀬医師会 在宅医療介護連携支援センター相談員 宮原 和華子氏 ・10月14日【参加者 9人】 ふるさとでいつまでも暮らしたい 講師:大川三瀬医師会 在宅医療介護連携支援センター相談員 宮原 和華子氏 ・3月9日【参加者 8人】 住み慣れた地域で自分らしく暮らしたい 講師:大川三瀬医師会在宅医療介護連携支援センター 相談員 宮原 和華子氏 ・3月12日【参加者 11人】 いつまでも我が家で暮らし続けたい 講師:大川三瀬医師会在宅医療介護連携支援センター 相談員 宮原 和華子氏 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・9月18日【参加者 45人】 「新型コロナウイルスを含めた一般的な感染対策」について 講師:田主丸中央病院 感染管理認定看護師 右田 早苗氏

○令和2年度の各センター毎の事業総括(注力して取り組んでいる事業など)

<p>(久留米)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は新型コロナウイルスの影響もあり、上半期は全ての行事を中止し、下半期に講演だけでなく、グループワークもオンラインで実施したが、懸念した通り参加者が激変した(特に介護系)。開催側としては分からないながらもできる限り調べたり、練習したりして実施したが、今後を考えると今まで通りの開催方法ができるとは思わない。他の講師が言った「今はまだ失敗しても誰も笑わない。今のうちに慣れてほしい」と思う。また、努力している団体の参加者割合は高い。 ・「在宅での生活を支えるための医療・介護ガイドブック」を作成。多くの専門職の執筆者に関わって頂いたので、以前よりも内容の濃い冊子が出来上がったと思われる。 ・次年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあるが、研修会もオンライン開催と対面式を状況を見ながら行い、市が力を入れているACP関連の事業も手探り状態ではあるが開催することで、ACPについて医療介護従事者や市民に少しずつでも浸透していけるように取り組んでいきたい。 <p>(小郡三井)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「顔の見える関係作りから」から一歩前進して「信頼できる関係作り」のためにグループワークや事例検討会などの多職種連携研修会を計画していたが、コロナ禍において対面での開催が困難だった。今後はオンラインによる研修も計画していく。講義形式の従事者研修会(出張研修)は、計画通り実施できた。 ・昨年度に引き続き、医師会会長と緩和ケア認定看護師さんに協力していただき、地域の高齢者を中心に、在宅医療におけるACPの普及啓発活動を公民館などで行った。 ・地域包括ケアシステムの構築に向けて、消防(救急)との連携強化のため意見交換会を行った。今後も消防(救急)とを交え、多職種連携体制の構築に取り組んでいく。 <p>(大川三瀬)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療介護従事者においては、研修会で実施されたアンケートの回答に基づいた計画を立て、それを活かした取組の実践を図った。 ・公民館やコミュニティセンターを会場とした地域住民向けの出前講座の実施に関しては、感染状況を見ながらの取り組みとなり、4カ所での開催にとどまった。 ・地域住民・医療介護従事者との情報共有(在宅医療マップ作成・多職種によるとびうめネットの活用)を図る事業においては、「三瀬町」、「城島町」の在宅医療マップに着手し、完成を目指しているところである。また「とびうめネット」に関しては、今後は実践に向けての取組を講じていきたい。 <p>(浮羽)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多職種連携を目標に「顔の見える関係を作る」ことを目標とし、今年度も多職種連携研修会や、部会ごとに会議・事例検討等を行い、職種間・職種毎の顔の見える関係づくりを構築した。 ・コロナ禍における研修の在り方について検討・準備を行った。 ・今後も、各部会の取り組みが他の部会に広がるよう、部会同士で課題共有をしたり、研修を企画したりする取り組みに繋げていく。

(参考)

項目	説明
① 研修実行委員会	研修の実施計画の作成に関する事項、研修会の開催に関する事項、研修会の運営上必要な事項について協議・検討するために多職種にて実行委員会を設置
② 多職種連携研修会	地域の医療・介護関係者がお互いの業務の現状等を知り、自由に意見交換ができる関係を構築するなど、現場レベルにおける医療と介護の連携促進のため、グループワーク等による研修会
③ 在宅医療・介護従事者研修会	地域の医療・介護専門職等に対して、それぞれの職種がお互いの分野についての知識を深め、関係者間の連携を円滑にすることを目的とした研修会
④ 同行訪問研修会	医療・介護関係者と地域の理解促進を目的に、医療機関等の医療・介護従事者の訪問見学等の研修会
⑤ 講演会(市民公開講座)	在宅医療・介護連携に対する理解促進を目的に、住民に対し在宅医療や介護に関する講演会
⑥ 出前講座	在宅医療・介護連携に対する理解促進を目的に、住民に対し在宅医療や介護に関する出前講座